





# 目次

はじめに .....	4
【コラム】 県土 60 分構想・コリドールネットワークの変遷 .....	6

## < 第 1 部 > 県土づくりの現状と課題

<b>I 各分野</b>	
1 道路 .....	8
2 河川・砂防 .....	12
3 まちづくり .....	14
4 公共交通 .....	18
<b>II 横断的視点</b>	
1 防災・減災、県土強靱化 .....	20
2 社会資本の維持管理・更新 .....	21
3 協働・地域間連携の促進 .....	22
4 担い手確保・育成 .....	23
5 DX・GX .....	24

## < 第 2 部 > これからの県土づくり

<b>I 重点施策</b>	
県土づくりの方向性 .....	26
施策の体系 .....	27
1 道路	
（1）成長を支える広域道路ネットワークの充実・強化 .....	28
（2）誰もが安全で安心して利用できる道づくり .....	30
（3）快適で円滑な移動を支える道づくり .....	32
（4）災害に強い道づくり .....	33
（5）未来を見据えた持続可能な道路管理 .....	34
2 河川・砂防	
（1）水災害を軽減するための流域治水の推進 .....	35
（2）災害対応力の強化 .....	36
3 まちづくり	
（1）「とちぎのスマート＋コンパクトシティ」の実現 .....	38
（2）誰もが安心して快適に暮らせる住まいの確保 .....	41
（3）快適で魅力にあふれる都市公園づくり .....	42
4 公共交通	
（1）地域の実情に応じた公共交通サービスの確保・充実 .....	43
【コラム】 みんなで取り組む“流域治水” .....	45
【コラム】 空き家対策の推進 .....	46
<b>II 横断的施策</b>	
1 防災・減災、県土強靱化 .....	48
2 社会資本の維持管理・更新 .....	50
3 協働・地域間連携の促進 .....	51
4 担い手確保・育成 .....	52
5 DX・GX .....	53
プランの推進と SDGs .....	55
【コラム】 自動運転技術を活用した地域課題の解決を目指して .....	56
【コラム】 建設業の魅力向上へ向けて .....	57
成果指標一覧 .....	58

# はじめに

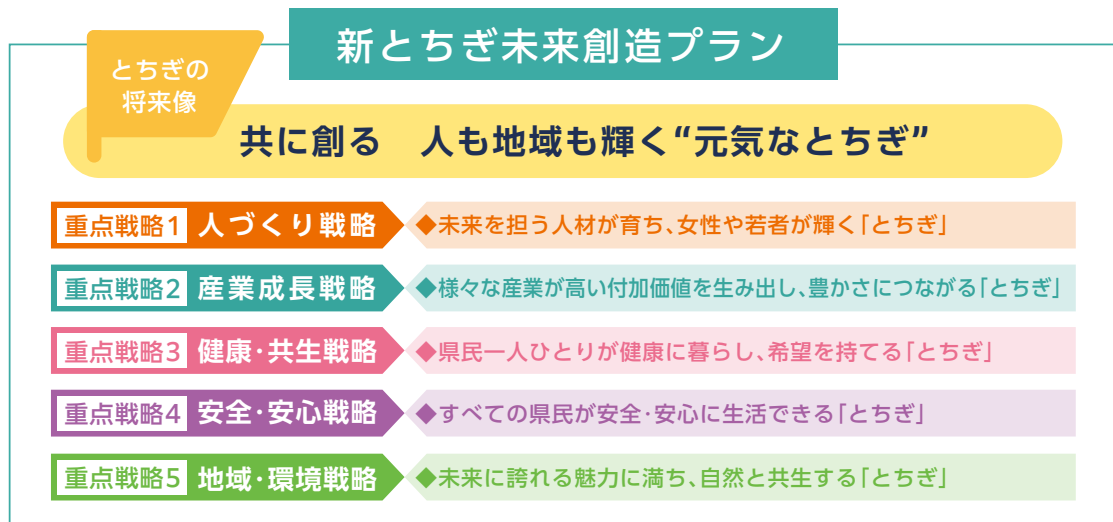
## プランの役割

「県土づくりプラン(2026-2030)」は、県政の基本指針となる「新とちぎ未来創造プラン」に掲げるとちぎの目指す将来像の実現に向けて、道路、河川・砂防、都市計画、都市公園、上下水道、住宅・建築物、公共交通など、県土づくりの各分野において、今後、重点的に進めていく施策や目標を示すものです。

## プランの計画期間

このプランは、「新とちぎ未来創造プラン」の計画期間に合わせて、令和8(2026)年度を初年度とする令和12(2030)年度までの5年間を計画期間とします。

### 県土づくりの役割イメージ



## 県土整備部の各計画体系図

### 新とちぎ未来創造プラン

#### 部門別計画：県土づくりプラン(2026-2030)

#### 分野別計画

##### 道路

- とちぎの道路・交通ビジョン
- とちぎ道づくりプログラム
- 栃木県無電柱化推進計画
- 栃木県緊急輸送道路ネットワーク計画
- 栃木県道路啓開計画

##### 河川・砂防

- 県民の命を守る河川砂防構想

##### まちづくり

- とちぎの都市ビジョン
- 都市計画区域マスタープラン
- 栃木県水道ビジョン
- 栃木県生活排水処理構想
- 栃木県建築物耐震改修促進計画
- 栃木県住宅マスタープラン  
(栃木県住生活基本計画、栃木県高齢者居住安定確保計画、栃木県賃貸住宅供給促進計画)

##### 公共交通

- 栃木県地域公共交通計画

##### DX

- とちぎインフラDX構想

## プランの基本構成

### <第1部> 県土づくりの現状と課題

人口減少・少子高齢化の進行、気候変動に伴い頻発・激甚化する自然災害、カーボンニュートラルの実現など、大きく変化する社会環境を踏まえ、県土づくりの各分野における現状と課題を整理します。また、各分野の施策を推進する上で、新たな時代の潮流を踏まえて共通して持つべき横断的視点から、現状と課題を整理します。

### <第2部> これからの県土づくり

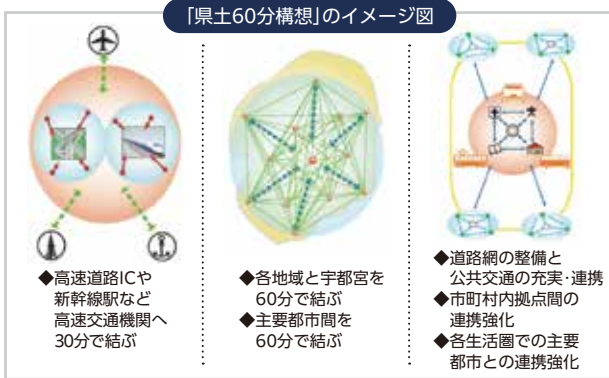
「新とちぎ未来創造プラン」に掲げるとちぎの将来像の実現に向けて、今後、県土づくりの各分野において重点的に取り組む施策を「重点施策」として位置付けます。また、横断的視点を持って取り組む施策を「横断的施策」として位置付けます。

# 県土60分構想・ コリドールネットワークの変遷

## 「県土60分構想」とは？

「県土60分構想」は、県内各地域と県庁を60分で結ぶなどの道路網の整備を目標に掲げた「とちぎの道路・交通ビジョン」の理念です。

平成13(2001)年に策定以来、当初の基本理念を継承しつつ、公共交通と自動車の連携や「人の移動」の重要性、更には災害への対応力強化など、社会が激しく変化する中で時代の背景に対応した視点を加えながら、本県の道路・交通分野における施策の方向性を示す基本計画として充実を図ってきました。



H13(2001)年  
「県土60分構想」

「県土60分構想」を策定し、体系的な道路網整備を推進

H18(2006)年  
「新たな県土60分構想」

「公共交通と自動車の連携」の視点を加える

H23(2011)年  
「人にやさしい県土60分構想」

「人の移動の重要性」の視点を加える

H28(2016)年  
「とちぎの道路・交通ビジョン」～県土60分構想2016～

「災害への対応力強化」の視点を加える

R3(2021)年  
「とちぎの道路・交通ビジョン2021」  
栃木県広域道路交通計画

「デジタル技術の活用」の視点を加える

R8(2026)年  
「とちぎの道路・交通ビジョン3.0」

これまでの取組成果を本県の強みとし、移動の価値と質の向上を図る

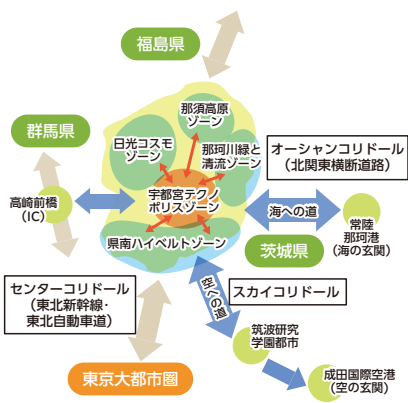
## 「コリドールネットワーク」とは？

交通基盤等を軸に、人・物・情報・技術・産業・文化などが活発に交流し、これらを通して有機的な連携が図られる地域の連なりを「コリドール」と呼び、そのネットワークを指す言葉です。

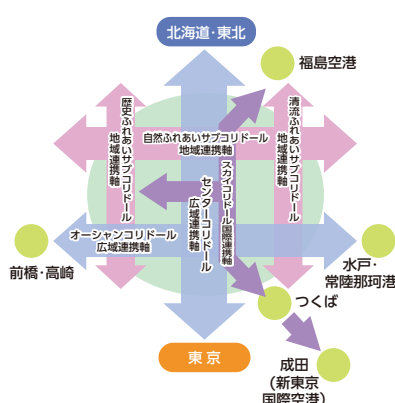
昭和61(1986)年に策定した「北関東クロスコリドール構想」を継承・発展させる形で、平成13(2001)年に「コリドールネットワーク」を策定し、平成28(2016)年に「新たな連なり」を追加しました。

コリドールネットワークは、3つのコリドールと3つのサブコリドールから構成され、これらのコリドールが県内で縦横にネットワークを形成することにより、県内の各地域の交流・連携が図られ、さらに全国との結びつきの基盤となります。

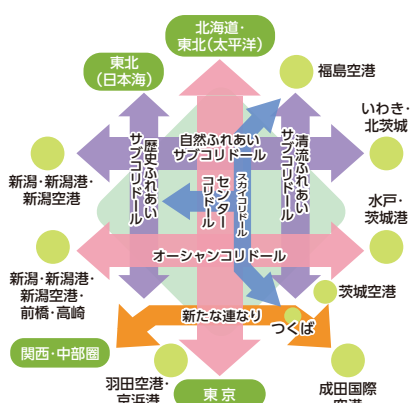
S61(1986)年  
「北関東クロスコリドール構想」



H13(2001)年  
「コリドールネットワーク」



H28(2016)年  
「コリドールネットワーク」





## 第1部

# 県土づくりの 現状と課題

## I 各分野



## (2) 交通事故

### 現状

県内の交通事故発生件数は減少傾向にあるものの、歩行者・自転車利用者の事故やこどもの通学時における事故はほぼ横ばいの状況にあります。

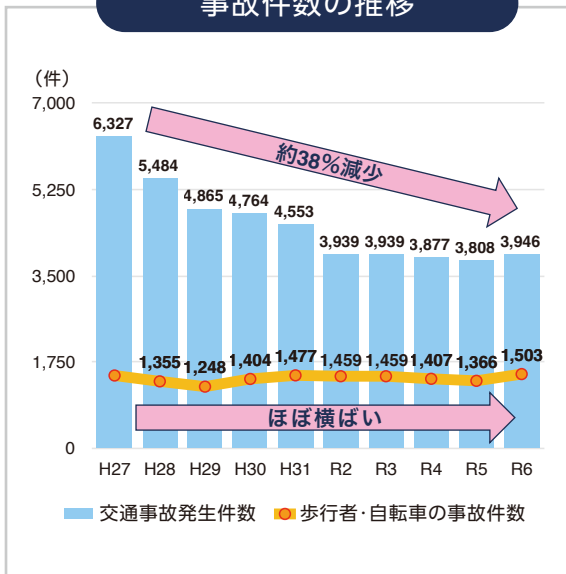
また、全国的にも歩行者・自転車が多く通行する生活道路や小学校の通学路などにおいて痛ましい事故が多数発生していることから、子どもたちをはじめ、県民を交通事故から守る安全対策が求められています。

### 歩道未整備区間の通学状況

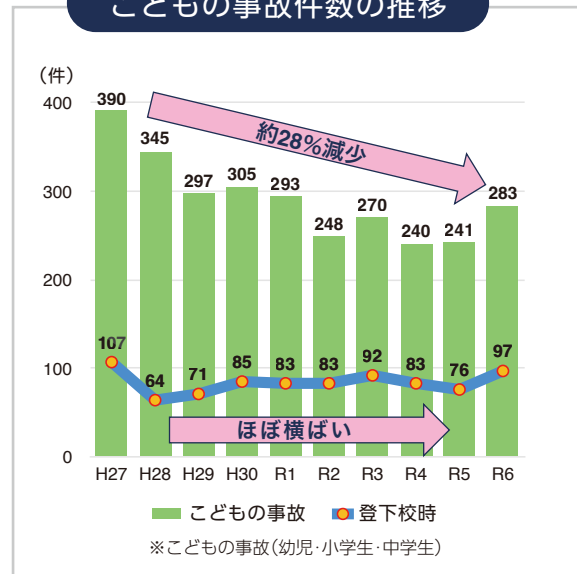


県道大田原氏家線 / さくら市

### 事故件数の推移



### こどもの事故件数の推移



出典：「とちぎの交通事故」(令和6年版 栃木県警察本部)、「交通年鑑」(令和元年版～令和6年版 栃木県警察本部)のデータを加工して県土整備部が作成

### 課題

- 子どもたちをはじめとする県民の道路利用状況の変化を的確にとらえ、誰もが安全・安心に道路を利用できるよう、**交通安全対策**を推進していく必要があります。

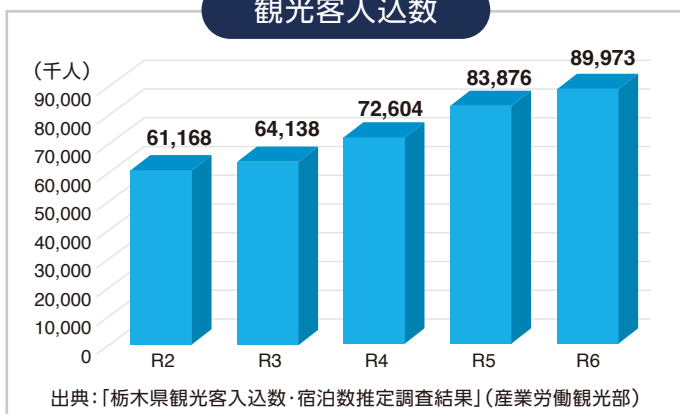
## (3) 交通渋滞

### 現状

観光産業は、新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けましたが、令和6(2024)年には、観光客入込客数は感染拡大前の9割程度まで回復しており、日光や那須をはじめとする本県の主要観光地では、行楽シーズンを中心に交通渋滞が発生しています。このため、広域的な観光周遊に支障をきたすなど、国内外からの来訪者の満足度の低下につながっています。

また、県内の各拠点を結ぶ幹線道路等においては、都市部を中心として朝夕の通勤時間帯に交通渋滞が発生し、定時性や速達性が損なわれている状況にあります。

#### 観光客入込数



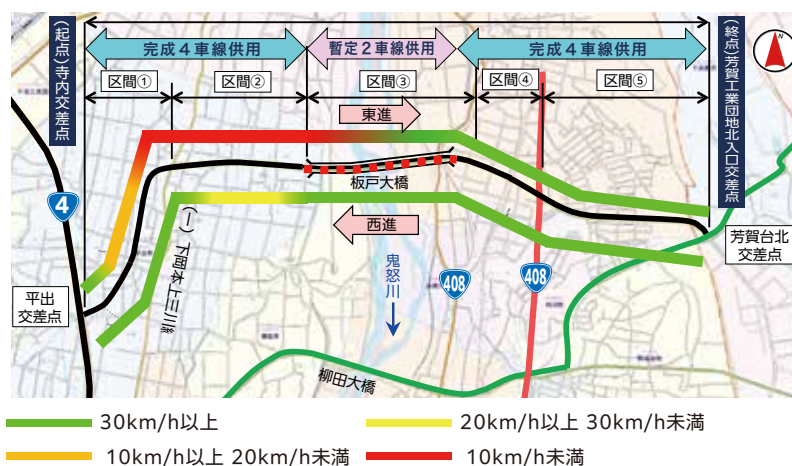
#### 観光地の渋滞状況



国道120号/日光市いろは坂

#### 通勤時の渋滞状況

主要地方道 宇都宮向田線 旅行速度調査結果(令和4年10月) ※朝の通勤時間帯(7:30頃)の調査結果



板戸大橋 西側 (宇都宮市街地方面を望む)  
県道宇都宮向田線/宇都宮市

### 課題

- 観光地としての魅力向上と、観光客の周遊性満足度を確保するため、ハード・ソフトの両面から**観光地や観光周遊道路における渋滞対策**を推進していくことが必要です。
- 地域間の交流・連携を促進するため、**幹線道路等における渋滞対策**を推進していくことが必要です。

## (4) 道路の防災・減災

### 現状

近年の気候変動に伴い頻発・激甚化する自然災害や、切迫する巨大地震に対応し、迅速な避難・救助や物資輸送などの応急活動を可能とするためには、災害時における緊急車両等の通行ルートの確保が求められます。また、道路が被災してもその被害を最小限に抑え、早期に復旧し通行を確保するための備えも重要です。

このため、災害時において安定した輸送を可能とする「強さ」と「しなやかさ」を兼ね備えた道路の機能強化が求められています。



通行不能状況(国道121号/日光市)



通行不能状況(県道小山大平線/栃木市)

### 課題

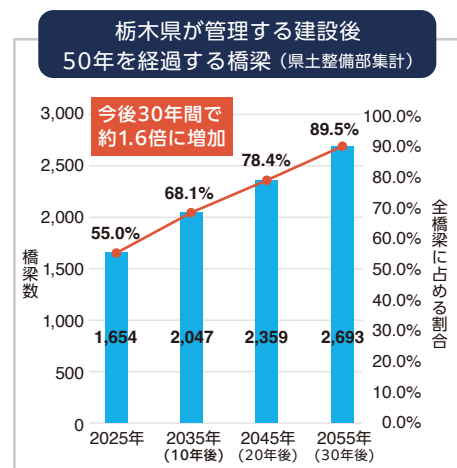
- 災害時においても道路機能の確保が可能となるよう、緊急輸送道路等の無電柱化や道路斜面の崩落・落石防止など、**道路の防災・減災対策**を推進していくことが必要です。

## (5) 道路管理

### 現状

橋梁やトンネル等の道路施設は、高度成長期以降に整備したものが多く、今後、建設から50年以上経過する施設の割合が増加し続ける見込みです。このため、適切な維持管理により、老朽化に起因する事故や機能低下の予防が求められています。

また、昨今の人手不足や物価高騰等を踏まえ、今後の維持管理費の低減を図るためには、道路施設の省エネルギー化や効率的かつ効果的な道路維持管理の推進が求められています。



### 課題

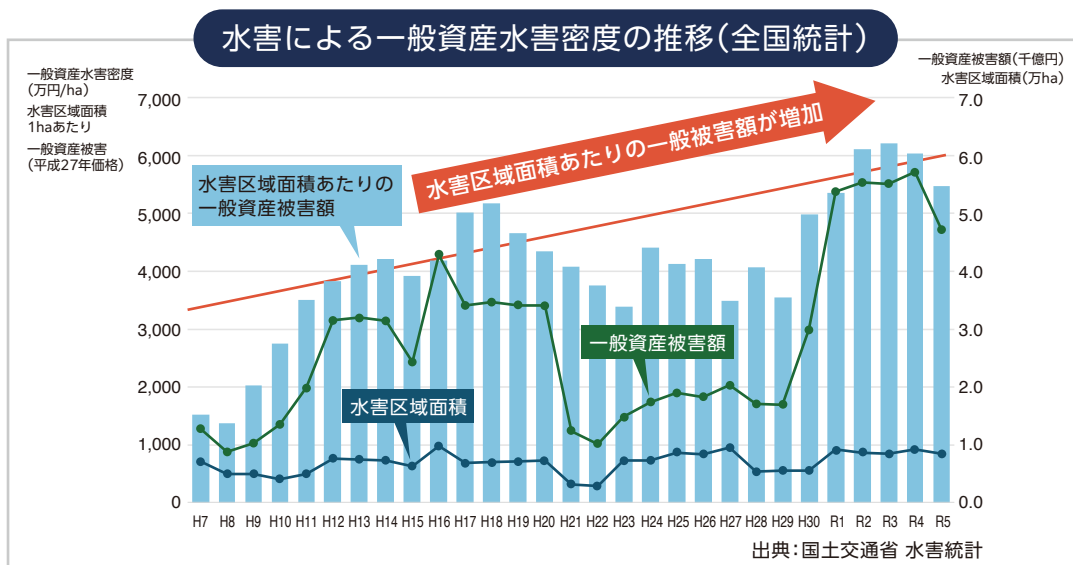
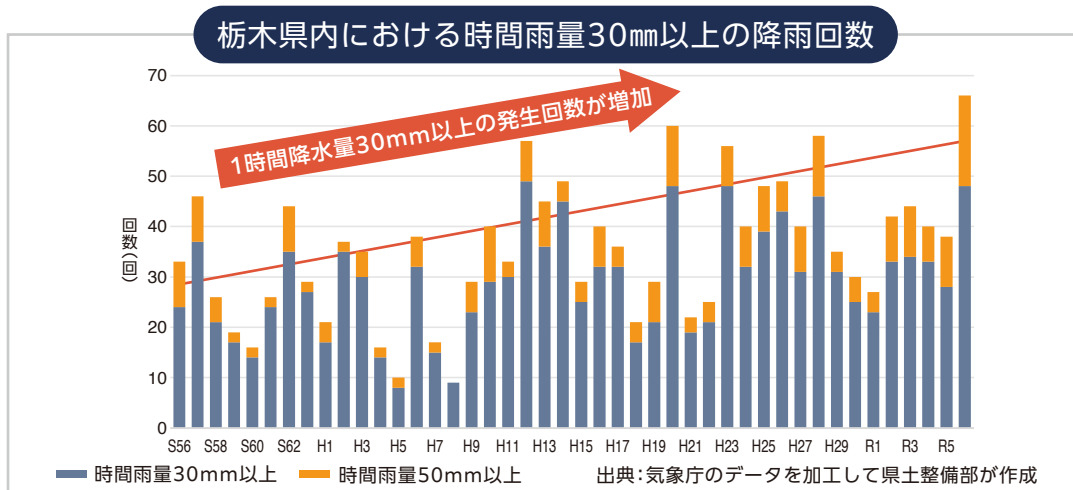
- 将来にわたって必要な道路機能を発揮し続けるため、事後保全から予防保全への本格的な転換や新技術の活用などにより、人手不足への対応や維持管理の効率化・高度化、維持管理費の低減を図り、**持続可能な道路の維持管理**を推進していくことが必要です。

## 2 河川・砂防

### 気候変動の影響により頻発・激甚化する水災害

#### 現状

気候変動の影響に伴い、近年、全国的に局地的大雨や集中豪雨などの水災害が発生する頻度が増加傾向にあるとともに、その被害も激甚化の傾向にあります。



本県においても、平成27年関東・東北豪雨や令和元年東日本台風では河川の氾濫や土砂災害などにより甚大な被害が生じ、被災した箇所の原形復旧や改良復旧に取り組んでいます。

#### 令和元年東日本台風による河川氾濫



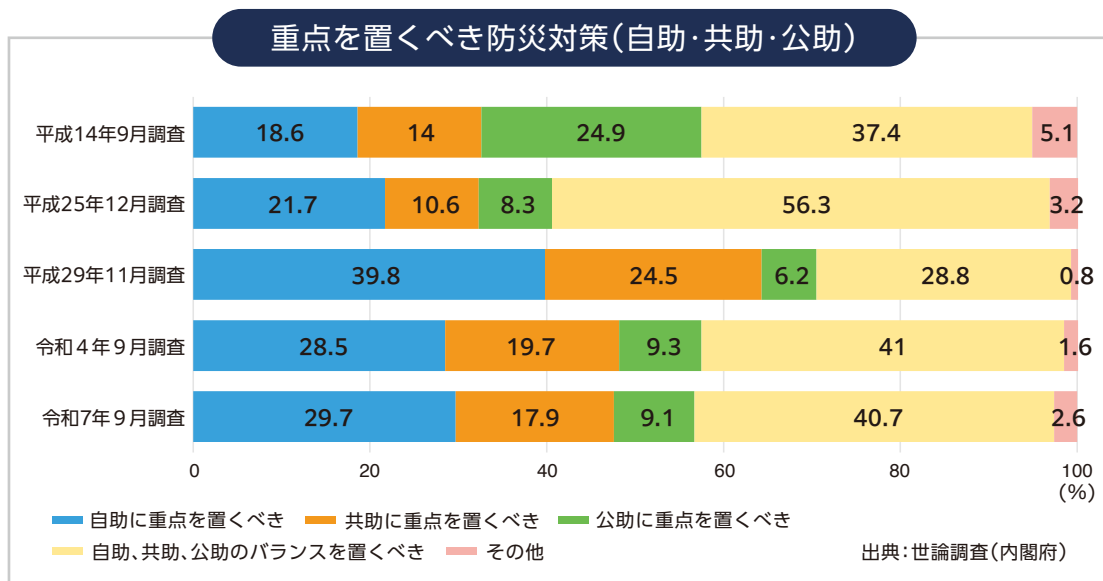
秋山川/佐野市



今後も水災害の発生リスクの高まりが懸念されており、豪雨災害に備えるため事前防災の観点を踏まえた対策に加えて、自助・共助に重点を置いた対策が求められています。

また、災害発生時には、一人ひとりが命を守る行動をとることが重要であり、社会全体でハード・ソフト両面から防災・減災対策に取り組む「水防災意識社会」の再構築が必要です。

さらに、近年の豪雨災害による甚大な被害を踏まえ、これまでの取組を一步進め、県民一人ひとりの意識や行動変容に加え、様々な社会・経済活動にも防災・減災を考慮することが当たり前となる社会の実現が求められています。



### 課題

- 頻発・激甚化する水災害による被害の防止・最小化のためには、事前防災の観点を踏まえ、**計画的な河川・砂防関係施設等の整備**を進めていくことが必要です。
- 河川・砂防関係施設等の管理者の取組に加えて、**流域全体のあらゆる関係者が、主体的に治水に取り組む「流域治水」**を推進することが必要です。
- 自然災害の発生に備えるため、**危機管理体制の充実や避難に資する災害情報の確実な発信**を進めていくことが必要です。

## 3 まちづくり

### (1) 都市

#### 現状

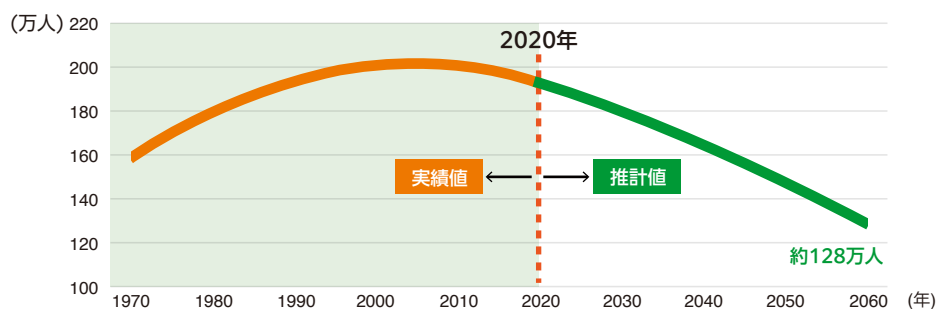
本県の人口は、平成17(2005)年の約202万人をピークに人口減少に転じ、令和42(2060)年には約128万人まで減少すると推計されています。

このまま人口減少が進行すると、人口密度の低下により、日常生活に必要な施設(店舗、医療機関、学校等)は利用者が減少することで撤退等が進み、中心市街地の魅力や活力の低下のほか、空き家や空き地等の低未利用地がランダムに発生する「都市のスポンジ化」が進行し、都市機能の維持が困難となることが懸念されます。

また、中山間地域のみならず都市部においても、65歳以上の高齢者が半数以上を占める集落の増加などにより、地域コミュニティの維持が困難となる地域が一層増加することが懸念されます。

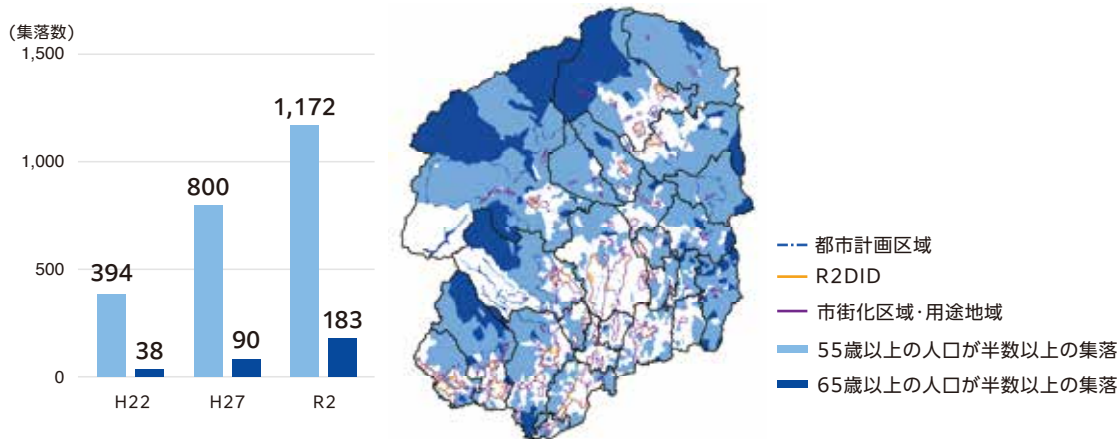
さらに、近年は自然災害が頻発・激甚化していることから、居住や都市機能が集積する市街地において、地震や河川の氾濫、土砂崩れなどの災害が発生した際には、大きな被害をもたらされるおそれがあります。

#### 栃木県の総人口の推移と将来推計人口(趨勢ケース)



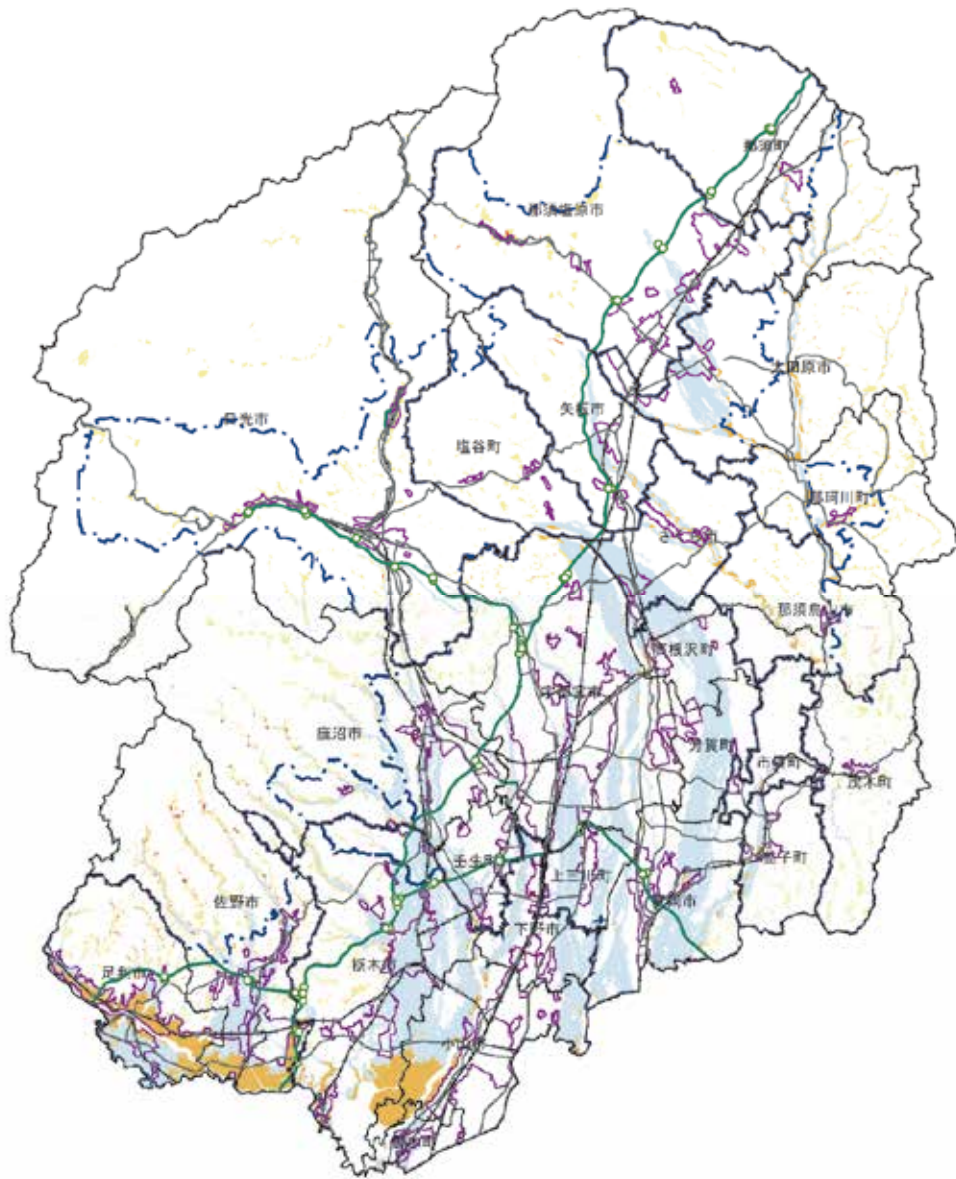
資料:総務省「国勢調査」 栃木県総合政策部推計(2024年)

#### 高齢化が進む集落の推移と分布状況



出典:とちぎの都市ビジョン(R6)

## 土砂災害警戒区域及び洪水浸水想定区域



凡例

行政界 高速道路 国道 鉄道路線 都市計画区域 市街化区域(非線引き用途地域)  
 土砂災害特別警戒区域 土砂災害警戒区域 浸水深3m以上 浸水深3m未満

出典:とちぎの都市ビジョン(R6)

## 課題

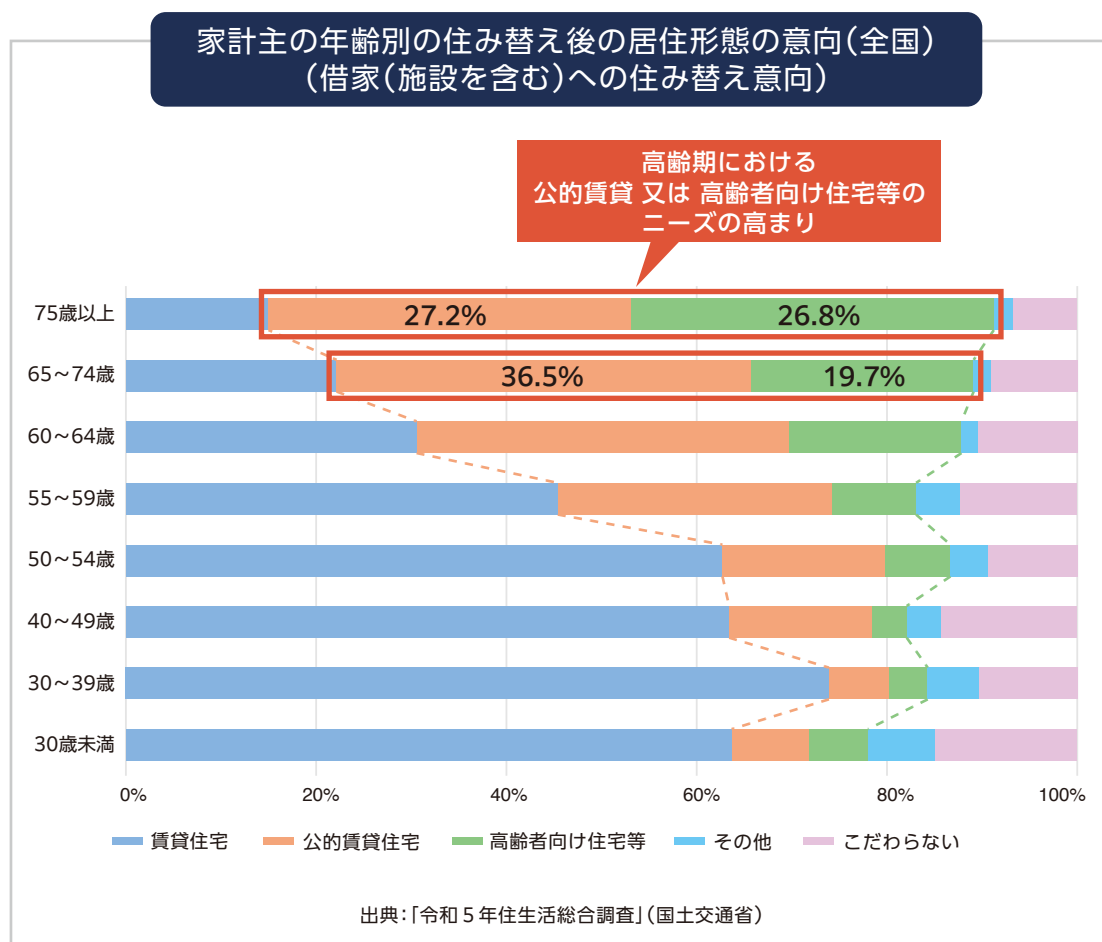
- 地域の特性に応じた都市機能が集積した機能性の高い拠点を形成するとともに、それら拠点間を公共交通サービスや道路ネットワークで結ぶことにより、将来にわたり日常生活に必要なサービスを確保し、**災害に強く、持続可能でにぎわいのある誰もが暮らしやすい“まち”をつくる**ことが必要です。

## (2) 住まい

### 現状

少子高齢化の進行に伴い、高齢者の単身世帯や夫婦のみの世帯が増加する中、持ち家住宅だけでなく、公的賃貸住宅、安否確認や生活相談等の生活支援がある高齢者向け住宅等への住み替えなど、高齢期における居住ニーズが多様化しています。

また、高齢者、低額所得者、障害者及び外国人などに対して、家賃滞納や孤独死等への不安から、民間賃貸住宅の貸主等から入居を敬遠される現状があります。



### 課題

- 県民一人ひとりが希望する住生活を実現するため、**誰もが安心して快適に暮らせる住まいの確保**が必要です。

### (3) 都市公園

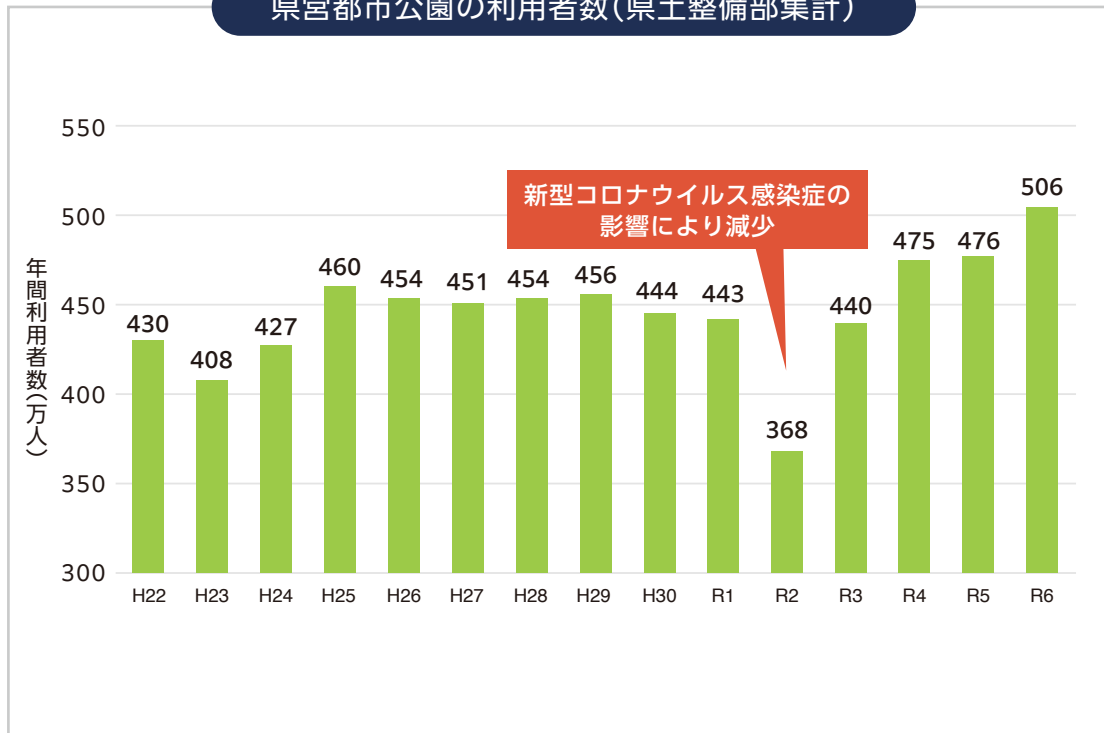
#### 現状

都市公園は、健康・レクリエーションをはじめ、子育て・教育、さらには防災機能など、県民の生活を支える多様な役割を担っています。また、本県の県民一人あたりの都市公園面積は、15.3㎡(全国15位、全国平均10.9㎡ ※R5末時点)と全国的に見ても高い水準にあります。

現在、県内には9つの県営都市公園があり、年間利用者数は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により一時的に減少しましたが、令和6(2024)年度には500万人を超え、過去最多の利用者数を記録しました。

一方で、各公園は供用開始から20~50年が経過しており、施設の老朽化をはじめ、樹木の老木化・巨木化が進行しつつあるほか、時代の変化に伴い利用者のニーズが多様化しています。

県営都市公園の利用者数(県土整備部集計)



#### 課題

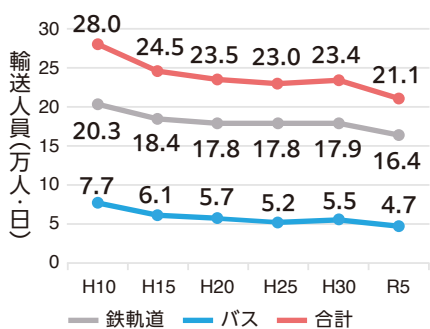
- 多様化する利用者ニーズに応えていくため、民間活力を十分に活用しながら、**都市公園の魅力向上**を図ることが必要です。

## 4 公共交通

### 現状

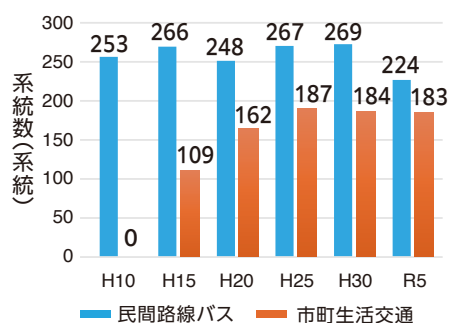
近年、社会情勢の変化に伴う公共交通利用者の減少や事業採算性の悪化等を理由とした民間路線バスの統廃合が急激に進んでおり、このような状況の中、県内市町ではコミュニティバスやデマンド交通を運行するなど、地域における移動の足を確保しています。

#### 県内の鉄軌道・バスの輸送人員の推移



出典：とちぎの公共交通

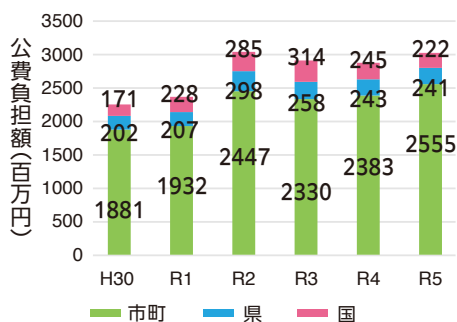
#### 県内の路線バス・市町生活交通の系統数の推移



出典：とちぎの公共交通

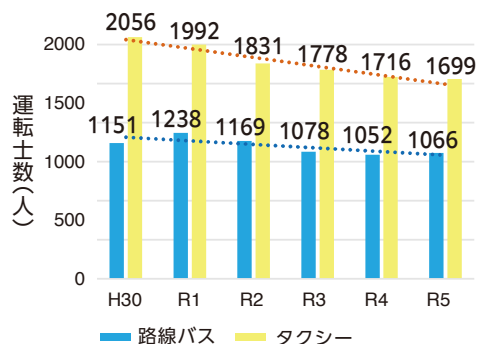
一方で、生活交通に対する行政の公費負担額は増加傾向にあり、また、2024年問題を契機としたバス・タクシーの運転手不足が深刻化しているなど、地域交通を取り巻く環境は年々厳しさを増しています。

#### 県内の生活交通に対する公費負担額の推移



出典：とちぎの公共交通

#### 県内のバス・タクシーの運転士数の推移



出典：とちぎの公共交通

高齢化・過疎化の影響により日常生活の移動に不便を抱えている県民のほか、観光等を目的とした県外来訪者の円滑な周遊を支える移動手段として、公共交通サービスの果たす役割やその確保の必要性はこれまで以上に高まっています。

### 課題

- 県民及び本県を訪れるすべての人が、安全・安心・快適に移動できるよう、**地域の実情に応じた公共交通サービスの確保・充実**に取り組むことが必要です。



# 第1部

## 県土づくりの 現状と課題

### Ⅱ 横断的視点

# 1 防災・減災、県土強靱化

## 現状

近年では、気候変動の影響により、全国各地で自然災害が頻発・激甚化しており、首都直下地震などの巨大地震の発生も切迫しています。

このような中、国では「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」(平成30年12月14日閣議決定)や「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」(令和2年12月11日閣議決定)としてハード・ソフト両面から対策を進めてきました。

さらに、国土強靱化基本法に基づく「第1次国土強靱化実施中期計画」(令和7年6月6日閣議決定)を定め、令和12(2030)年度までの5年間で対策の加速化・深化を図ることとしています。

県ではこれまで国の施策に呼応し、「栃木県国土強靱化地域計画」等に基づき、積極的に対策を進めていますが、防災・減災、国土強靱化の取組は道半ばにあります。

## 過去の自然災害による被災状況



令和元年東日本台風



東日本大震災

## 課題

- 県民の「命」や「財産」はもとより、日々の「暮らし」や「生業」を守るため、市町、民間企業や県民等のあらゆる関係者と連携しながら、**強くしなやかな県土づくりに向けた取組**を着実に推進していく必要があります。

## 2 社会資本の維持管理・更新

### 現状

高度経済成長期に整備された道路や河川といった公共土木施設などの社会資本の老朽化が加速度的に進行しており、老朽化に起因する事故の発生や災害耐力の低下による災害時の被害拡大が懸念されています。

社会資本を維持管理する県や市町においては、人材や予算が限られる状況の中で、予防保全型メンテナンスへの早期転換を図り、将来にわたってインフラの機能維持が図れるよう、計画的かつ効率的な維持管理や更新が求められています。

### 公共土木施設の老朽化状況

橋げた



橋脚



横断歩道橋



トンネル



### 維持管理の状況



### 課題

- 安全で安心な社会資本を未来に引き継げるよう、事後保全から予防保全への転換や新技術の活用、地域との連携などにより、**計画的かつ効率的な維持管理・更新**を推進していく必要があります。

### 3 協働・地域間連携の促進

#### 現状

本県の持続的な成長・発展を促進し、地方創生を実現するため、これまで県では、「県土60分構想」に基づき県土づくりを進めてきました。

人口減少・少子高齢化をはじめ、頻発・激甚化する自然災害など、顕在化する様々な社会課題に対応するためには、県内はもとより、県域を越えた地域間の連携が求められます。

このため、本県の地理的優位性を踏まえ、国や市町、関係団体、民間企業等あらゆる関係者と連携しながら、地域間連携を促進する道路や公共交通といった広域的な交通インフラの充実・強化等を図る必要があります。

このような広域的な取組は、交通や上下水道等の各種ライフラインを将来にわたって維持するために極めて重要です。その実現には、限られた人材や予算の中で計画的かつ効率的な管理を進めることが不可欠であり、県と市町、さらに地域間の連携・協働が求められます。

#### とちぎの道路・ 交通ビジョン3.0



#### 課題

- 持続可能な県土を形成していくためには、あらゆる関係者と連携し、**ハード・ソフト両面から、地域間連携の構築・強化を促進させる取組**を着実に推進していく必要があります。

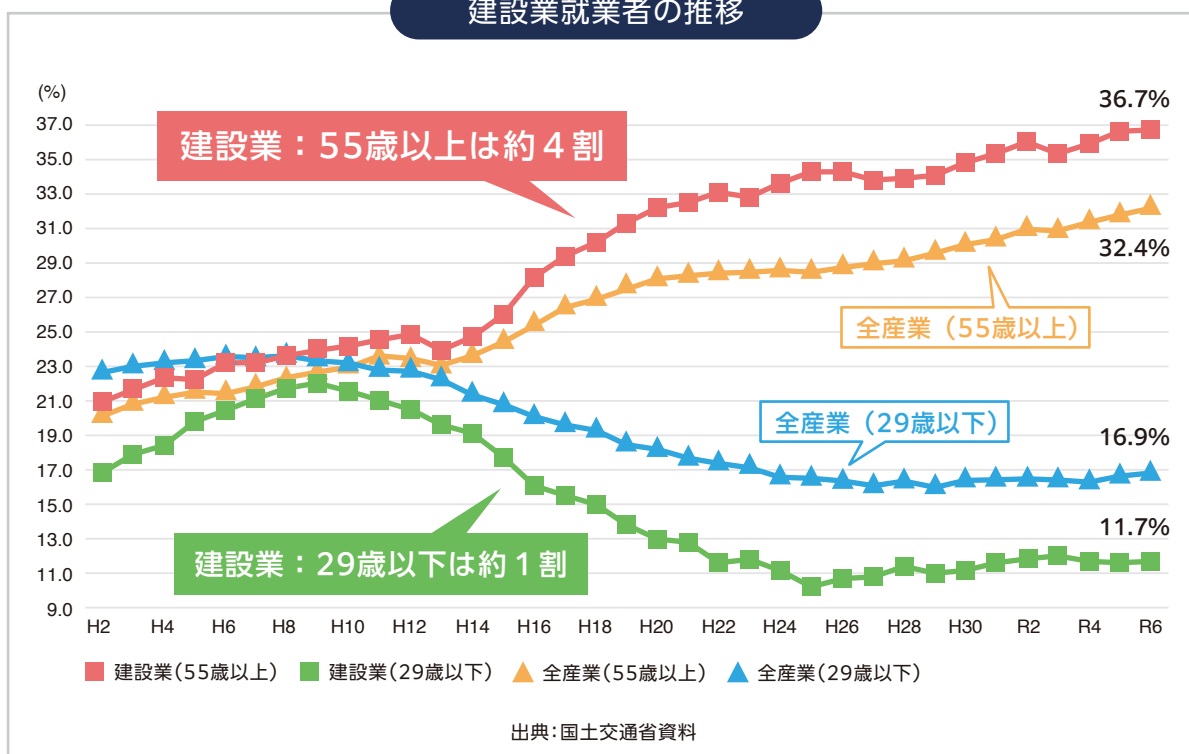
## 4 担い手確保・育成

### 現状

社会資本の形成を図る上で、分かりやすく積極的な情報発信に努め、社会資本整備に対する理解と協力を得ながら、県民とともに県土づくりを進める体制を構築していくことが重要です。

また、社会資本の整備や維持管理を担う建設業の就業者は高齢化が進んでいることに加え、建設業は3K(きつい、汚い、危険)のイメージが強く、将来の担い手の確保が厳しい状況にあることから、若者や女性など誰もが働きやすい新4K(給与がよい、休暇がとれる、希望がもてる、カッコイイ)の実現を図ることが求められています。

### 建設業就業者の推移



### 課題

- 県土づくりにおいては県民との協働はもとより、「地域の創り手・守り手」を担う建設業の役割が不可欠です。建設業においては、働き方改革の促進と現場環境の改善に努めるとともに、正しい理解の醸成と魅力発信を積極的に行うなど、「産学官」が連携して担い手の確保・育成に取り組む必要があります。

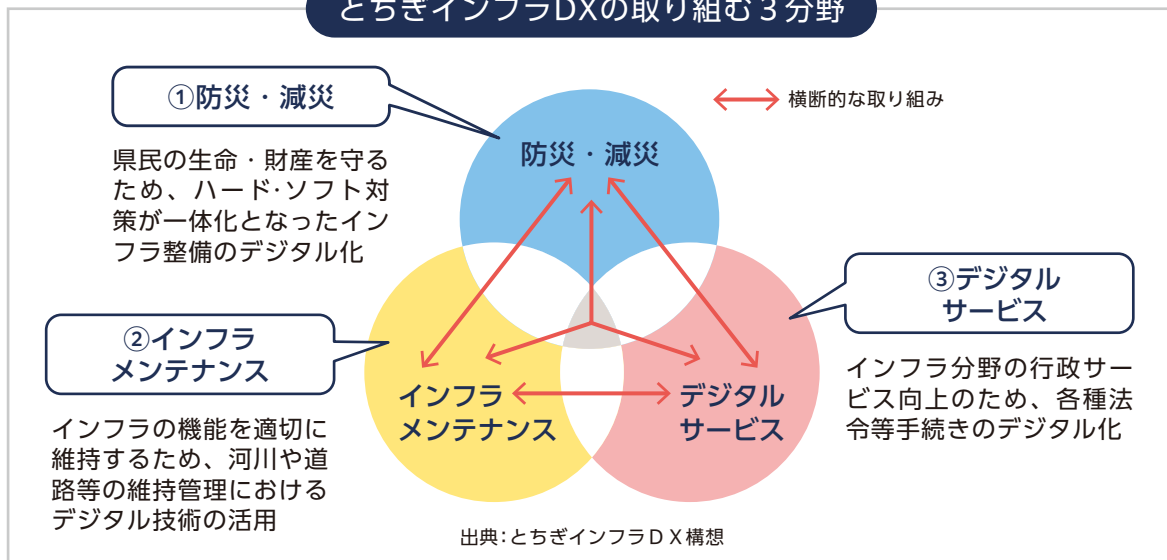
# 5 DX・GX

## 現状

日進月歩で進化を遂げるデジタル等新技术やデータの活用により、インフラ分野における業務変革(DX)が本格的に進展しています。県では、令和5年3月に「とちぎインフラDX構想」を策定し、これまでの業務を効率化・高度化する様々な取り組みを推進しています。重点取組として、県民目線に立った「とちぎ地図情報公開システム(GIS)の高度化」などの防災・減災分野の取組を進めています。

また、地球温暖化対策として、国では、2050年までにカーボンニュートラルの達成を目指し、経済・社会、産業構造を化石燃料中心からクリーンエネルギー中心に移行させ、経済社会システム全体の変革(GX)の推進を図っています。県では、中温化合材や二酸化炭素を固定化したコンクリート材料の活用、電動建設機械等の普及に向けた検討等を進めています。

### とちぎインフラDXの取組む3分野



### 建設分野におけるカーボンニュートラルの取組事例



## 課題

- インフラ分野におけるデジタル等新技术未来技術の活用やグリーンインフラの活用等も踏まえながら、**持続可能な社会資本や公共サービスへの変革に向けた取組**を積極的に推進していく必要があります。



## 第2部

# これからの 県土づくり

## I 重点施策

## 県土づくりの方向性

「新とちぎ未来創造プラン」に掲げ、めざすとちぎの将来像「共に創る 人も地域も輝く “元気なとちぎ”」を実現するためには、県民の「命」や「財産」はもとより、日々の「暮らし」や「生業」を守り、地域発展の基盤となる社会資本の整備・保全が不可欠です。

今を生きる私たちが豊かで安心して暮らせるとちぎをつくり、次の世代に確実に引き継いでいくために、時代の潮流を的確にとらえ、あらゆる関係者と連携・協働しながら、「安心・元気なとちぎ」を共に創る 未来につなぐ県土づくり」を着実に推進していきます。

とちぎの  
将来像

共に創る 人も地域も輝く “元気なとちぎ”

県土づくりの  
方向性

“安心・元気なとちぎ”を共に創る  
未来につなぐ 県土づくり

横断的  
施策

防災・減災、県土強靱化

社会資本の維持管理・更新

協働・地域間連携の促進

担い手確保・育成

DX・GX

道路

河川・砂防

まちづくり

公共交通

重点施策

# 施策の体系

第1部での現状と課題の整理に基づき、県土づくりの各分野において、今後、重点的に取り組む11の「重点施策」と、横断的な視点を持って取り組む5つの「横断的施策」を位置付けます。

また、これらの施策の役割は、「新とちぎ未来創造プラン」に掲げる5つの重点戦略において、以下の表のように様々な分野にまたがっており、めざすとちぎの将来像の実現に向けて、各種施策を着実に推進していきます。

県土づくりプラン(2026-2030)		新とちぎ未来創造プラン				
		1 人づくり 戦略	2 産業成長 戦略	3 健康・共生 戦略	4 安全・安心 戦略	5 地域・環境 戦略
<b>重点施策</b>						
1 道路	成長を支える広域道路ネットワークの充実・強化		●		●	●
	誰もが安全で安心して利用できる道づくり	●	●	●	●	●
	快適で円滑な移動を支える道づくり		●		●	●
	災害に強い道づくり		●		●	
	未来を見据えた持続可能な道路管理				●	●
2 河川・砂防	水災害を軽減するための流域治水の推進				●	●
	災害対応力の強化				●	●
3 まちづくり	「とちぎのスマート＋コンパクトシティ」の実現			●	●	●
	誰もが安心して快適に暮らせる住まいの確保	●		●	●	
4 公共交通	快適で魅力にあふれる都市公園づくり	●			●	●
	地域の実情に応じた公共交通サービスの確保・充実	●	●	●		●
<b>横断的施策</b>						
1 防災・減災、 県土強靱化	2 社会資本の 維持管理・更新	3 協働・地域間 連携の促進	4 担い手確保・ 育成	5 DX・GX		

## 1 道路

## 重点施策(1)

## 成長を支える広域道路ネットワークの充実・強化

## 施策内容

国内外との広域的な交流・連携の促進や平常時・災害時を問わず安定的な輸送の確保を可能とし、本県の持続的な**成長を支える広域道路ネットワークの充実・強化**を推進します。

## 主な取組

- 県域を越えた人や物の流れを支える**広域道路ネットワークの充実・強化**

高規格道路の整備



国道408号/宇都宮高根沢BP

高規格道路の整備



国道119号/宇都宮環状北道路

高規格道路の整備



国道408号/真岡南BP

高規格道路の整備



国道121号/日光川治防災

スマートICの整備



東北自動車道/都賀西方スマートIC

スマートICの整備



北関東自動車道/出流原スマートIC

## 主な取組

- 地域間の連携・交流を支える**幹線道路ネットワーク**の充実・強化



県道宇都宮今市線/宇都宮市駒生



県道鹿沼足尾線/鹿沼市布施谷



県道西田井二宮線/真岡市石島



県道矢板那須線/矢板市片岡



県道西那須野那須線/那須塩原市上中野



県道小川田野倉線/那須烏山市田野倉

## 成果指標

成果指標	現状値	目標値
広域道路ネットワークを構成する主要路線の整備延長	- km(2025)	10km(2030)
高速道路のスマートIC 数	6箇所(2025)	10箇所(2030)

## 重点施策(2)

## 誰もが安全で安心して利用できる道づくり

## 施策内容

行政や学校、警察など、関係機関が緊密に連携しながら交通安全対策に取り組み、こどもたちをはじめ、**誰もが安全で安心して利用できる道づくり**を推進します。

## 主な取組

- 通学路(小学校半径1km圏内等)や生活道路対策エリアにおける**歩道整備**の推進
- 学校・警察等との連携による**通学路等の合同点検の着実な実施、安全対策**の推進

歩道整備



県道和泉間々田線/小山市

歩道整備



県道杉山石末線/高根沢町

歩道整備



県道佐野田沼線/佐野市

横断歩道橋整備



県道羽生田上蒲生線/壬生町

安全対策(カラー舗装)



県道下日向栗野線/鹿沼市

安全対策(防護柵設置)



県道真岡那須烏山線/芳賀町

## 主な取組

## ● 事故危険箇所における安全対策の推進

## バイパス整備



県道宇都宮鹿沼線/鹿沼市

## 歩道整備



県道西那須野那須線/那須塩原市

## 交差点改良



国道294号/那須烏山市

## 橋梁・跨線橋の整備



県道足利千代田線/足利市/中橋

## ● 安全で快適な自転車利用環境の創出

## 自転車通行空間の整備



県道宇都宮今市線/宇都宮市

## 自転車通行空間の整備



県道宇都宮亀和田栃木線/栃木市

## 成果指標

成果指標	現状値	目標値
通学路等の歩道整備延長	- (2025)	60km(2030)
事故危険箇所の対策箇所数	58箇所(2025)	71箇所(2030)
自転車通行空間の整備延長	530km(2025)	555km(2030)

## 重点施策(3)

## 快適で円滑な移動を支える道づくり

## 施策内容

観光誘客の促進や地域の活性化を図るため、観光地へのアクセスや観光周遊を支える道路のほか、日常生活に欠かせない身近な道路における渋滞対策に取り組むなど、**快適で円滑な移動を支える道づくり**を推進します。

## 主な取組

- **観光地へのアクセス道路の整備**や**渋滞対策**の推進

## アクセス道路の整備



国道119号/日光市

## アクセス道路の整備



国道400号/那須塩原市

## 道路交通の適正化(渋滞対策)



ライブカメラ配信

国道120号外/日光市

## 渋滞対策HP



渋滞状況の発信

国道120号外/日光市

- **主要渋滞箇所**における渋滞対策の推進
- 円滑かつ安全な交通を実現する**環状交差点**の整備推進

## 道路の拡幅整備



国道121号/真岡市

## 環状交差点の整備イメージ



県道宇都宮那須烏山線/那須烏山市

## 成果指標

成果指標	現状値	目標値
主要渋滞箇所の対策箇所数	59箇所(2025)	91箇所(2030)

## 重点施策(4)

## 災害に強い道づくり

## 施策内容

頻発・激甚化する自然災害や切迫する巨大地震に備え、災害時における通行ルートの迅速かつ的確な確保等が可能となるよう、道路の防災・減災対策を進め、**災害に強い道づくり**を推進します。

## 主な取組

- 災害時における交通やライフラインの機能確保に向けた**無電柱化**の推進
- 斜面崩落等を防止する**防災対策**の推進

## 無電柱化



国道119号/日光市

## 防災対策



県道塩原矢板線/那須塩原市

- 倒木による道路や電線等のライフラインへの被害を防止する**予防伐採**の推進
- 地震による被災を最小化し、緊急車両の通行確保に向けた**橋梁耐震化**の推進

## 予防伐採



国道294号/茂木町

## 橋梁耐震化



県道西小埴真岡線/益子町/田野橋

## 成果指標

成果指標	現状値	目標値
電線類地中化の整備延長	79km(2025)	90km(2030)
道路防災点検における要対策箇所の整備率	65.3%(2025)	68.4%(2030)

## 重点施策(5)

## 未来を見据えた持続可能な道路管理

## 施策内容

道路利用者の安全・安心を守るとともに、社会資本を次世代へと確実に引き継げるよう、予防保全の観点も踏まえ、道路施設の老朽化対策や省エネルギー化を行うとともに、新技術の活用等による維持管理の高度化・効率化を図り、**未来を見据えた持続可能な道路管理**を推進します。

## 主な取組

- **トンネル照明のLED化**など道路設備の省エネルギー化の推進
- 新技術を活用した**高度で効率的な道路管理**の推進
- 公共土木施設等の**計画的な点検**と効果的な修繕等によるライフサイクルコストを最適化する**長寿命化対策**の推進

トンネル照明 LED化



国道293号/会沢トンネル

ドローンを活用した橋梁点検



県道和泉間々田線/小山市

トンネル点検



国道120号/金精トンネル

橋梁の長寿命化対策



県道黒磯棚倉線/昭明橋

## 成果指標

成果指標	現状値	目標値
橋梁※の長寿命化対策実施数	0 橋 (2025)	174 橋(2030)

※令和7(2025)年度末において、早期に措置が必要と判断されている全174橋

## 2 河川・砂防

### 重点施策(1)

#### 水災害を軽減するための流域治水の推進

#### 施策内容

頻発・激甚化する水災害から県民の「命」や「財産」はもとより、日々の「暮らし」や「生業」を守るため、河川・砂防関係施設の計画的な整備による事前防災の取組等、流域全体のあらゆる関係者と協働し、**水災害を軽減するための流域治水対策**を推進します。

#### 主な取組

- 気候変動を考慮した**河川整備計画の見直し**
- 洪水による被害を防ぐ**河川整備**の推進
- 土砂災害を防止する**砂防関係施設整備**の推進
- **ダムの洪水調節機能を発揮**させるための事前放流を含めた**的確な運用**
- 国・県・市町・企業・住民など**あらゆる関係者が協働して取り組む流域治水**の推進
- 水辺に親しむことができる**良好な河川空間の創出**

地下捷水路(建設中)



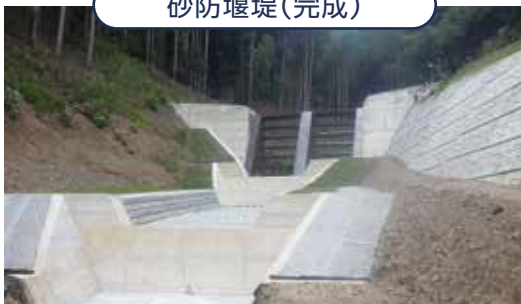
巴波川/栃木市

調節池(完成)



田川/宇都宮市

砂防堰堤(完成)



馬場沢/足利市

事前放流



西荒川ダム/塩谷町

#### 成果指標

成果指標	現状値	目標値
河川における優先整備区間の整備延長	98.9km(2025)	120.0km(2030)
土砂災害警戒区域内における重点整備箇所の対策完了箇所数	55箇所(2025)	88箇所(2030)

## 重点施策(2)

### 災害対応力の強化

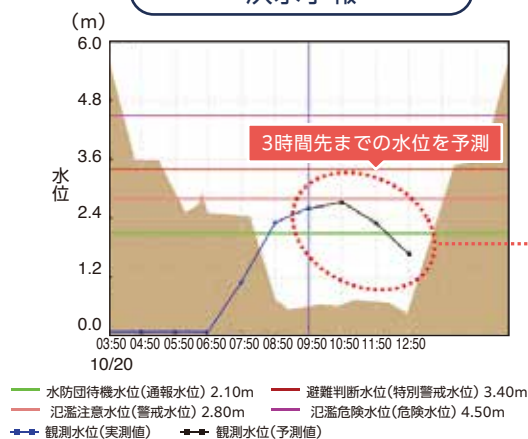
#### 施策内容

自然災害発生時の被害を軽減し、早期の復旧活動が可能となるよう、防災情報の確実な発信手段の充実や、防災訓練等を通じた地域防災力の向上などにより、**災害対応力の強化**を図ります。

#### 主な取組

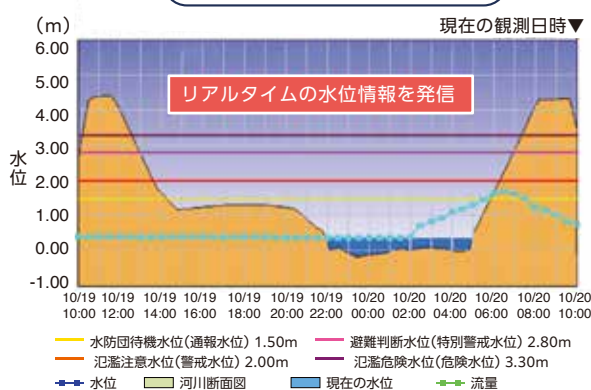
- 水害や土砂災害等の危険度を分かりやすく伝える**災害リスク情報**や**リアルタイム情報の充実と確実な発信**
- 洪水浸水想定区域、雨水出水浸水想定区域及び土砂災害警戒区域を基に市町が実施する**ハザードマップ整備への支援**
- 土砂災害警戒区域を分かりやすく伝える**ダイレクトメールの送付**や**標識の設置**
- **自然災害に備えた資機材の適切な配備と運用**
- 地域防災力の向上に向けた**各種防災訓練**や**出前講座・ワークショップの実施**
- 公共土木施設の復旧体制に関する**国・県・市町及び関係団体の連携強化**

#### 洪水予報



時	03:50	04:50	05:50	06:50	07:50	08:50	09:50	10:50	11:50	12:50
水位(m)	0.09	0.09	0.09	0.09	1.09	2.35	2.56	2.75	2.32	1.66

#### 河川水位情報

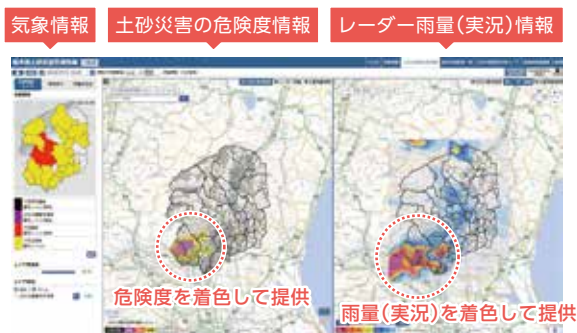


日時	22:30	23:00	23:30	10/20 00:00	00:30	01:00	01:30	02:00	02:30	03:00	03:30	04:00
水位(m)	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	0.72	0.85	0.94	1.08
水位差分(m)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

日時	04:30	05:00	05:30	06:00	06:30	07:00	07:30	08:00	08:30	09:00	09:30	10:00
水位(m)	1.17	1.26	1.44	1.58	1.71	1.59	1.51	1.22	1.15	1.02	0.77	0.71
水位差分(m)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

#### 土砂災害警戒情報



#### ダイレクトメールの送付



防災訓練

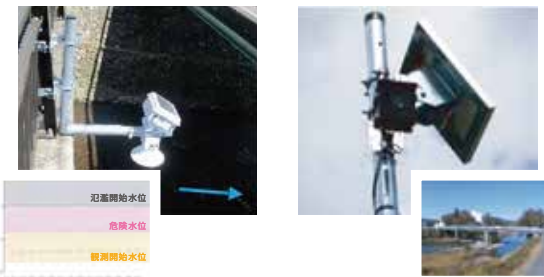


利根川水系連合・総合水防演習

流域治水に関する小学校での出前講座



危機管理型水位計や簡易型河川監視カメラによる観測データの配信



緊急速報メールを活用したプッシュ型配信



ハザードマップ整備支援



大規模災害時における公共土木施設の復旧体制に関する連携会議



排水ポンプ車操作訓練



合同情報伝達訓練



成果指標

成果指標	現状値	目標値
市町によるハザードマップの整備率	75%(2025)	100%(2030)

# 3 まちづくり

## 重点施策(1)

### 「とちぎのスマート+コンパクトシティ」の実現

#### 施策内容

災害に強く、持続可能でにぎわいのある誰もが暮らしやすい「まち」をつくるため、地域の特性に応じた都市機能を集積した拠点づくりを進めるとともに、地域資源を活用した魅力やにぎわいを創出するなど、「**とちぎのスマート+コンパクトシティ**」の実現に向けた取組を推進します。

#### 主な取組

##### 拠点づくり

- 都市機能の集積や**まちなかへの居住の誘導**の促進

##### 中心市街地の活性化



那須塩原市

##### 市街地再開発事業



小山市

- **空き家の発生抑制、活用・除却**の促進による良好な都市環境の確保・創出
- **道路のバリアフリー化**による誰もが使いやすい道路空間の創出

##### 空き家を活用したまちづくり拠点



真岡市

##### 道路のバリアフリー化



県道下今市停車場線/日光市

- **下水道の整備**による生活環境の保全

##### 地域に応じた生活排水処理施設

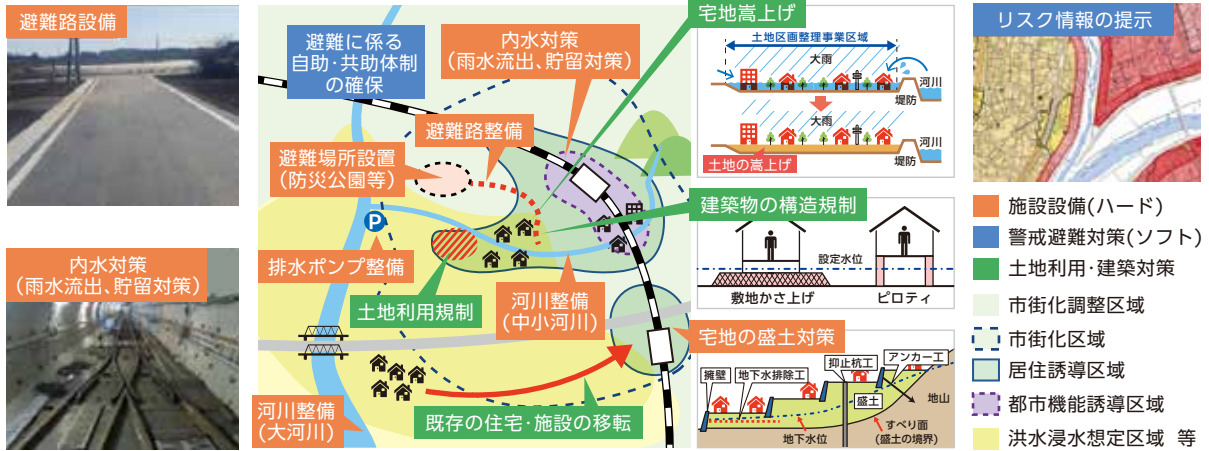


### 主な取組

#### 防災まちづくり

● 災害リスクを踏まえた**防災まちづくり**の促進

#### 防災まちづくりのイメージ



### 主な取組

#### 魅力・にぎわいの創出

● 個性あふれる**持続可能な都市づくり**の推進



宇都宮駅東口地区/宇都宮市



とちぎ蔵の街/栃木市

● 公開空地や道路・河川などの**公共空間の活用**による**魅力やにぎわい**の創出

#### 公開空地の活用



宝積寺駅前広場/高根沢町

#### 公園空間の活用



城山公園/小山市

#### 道路空間の活用



市道東那須野大通り/那須塩原市

#### 河川空間の活用



田川/宇都宮市

- 無電柱化等による**魅力的で個性ある景観**の形成

## 無電柱化



県道下大羽益子線/益子町



国道119号/日光市

- **インフラカード**を活用した観光促進
- SNSを活用したとちぎの**魅力ある景観**に関する情報の発信
- 生態系や親水性、景観などに配慮した**多自然川づくり**の推進

## 各種インフラカード



※上記の写真には既に配布を終了しているカードも含まれています。

## SNSによる魅力ある景観の発信



## 成果指標

成果指標	現状値	目標値
立地適正化計画策定市町数	16市町(2025)	21市町(2030)
空家等管理活用支援法人の指定法人数	6法人(2025)	15法人(2030)
下水道普及率	70.4%(2024)	73.2%(2030)
防災指針策定市町数	14市町(2025)	21市町(2030)
上水道の基幹管路耐震適合率	40.3%(2023)	47.3%(2030)
流域下水道の重要管渠耐震化率	36.1%(2024)	90.0%(2030)
都市再生整備計画地区数	109地区(2025)	119地区(2030)

## 重点施策(2)

## 誰もが安心して快適に暮らせる住まいの確保

## 施策内容

県民一人ひとりが真に豊かさを実感でき、希望する住生活を実現するため、**誰もが安心して快適に暮らせる住まいの確保**に向けた取組を推進します。

## 主な取組

- 倒壊による被害防止・軽減に向けた**住宅・建築物の耐震化等**の促進
- 多様な住居ニーズにきめ細かに対応した**住まいの確保・居住支援**の推進
- 子育て世帯や高齢者などにやさしい**県営住宅のバリアフリー化**の推進

## 住宅の耐震化



## 建築物の耐震化



## サービス付き高齢者向け住宅



## 県営住宅の高齢者向け住戸改善



## 成果指標

成果指標	現状値	目標値
住宅の耐震化率	92%(2025)	96%(2030)
バリアフリー化された県営住宅戸数	3,310戸(2025)	3,400戸(2030)

## 重点施策(3)

## 快適で魅力にあふれる都市公園づくり

## 施策内容

多様化する県民ニーズに応えるとともに、地域の魅力や資源を生かした地域の活性化を図るため、民間活力の活用や公園施設の再整備、樹木の適正管理に取り組むなど、**快適で魅力にあふれる都市公園づくり**を推進します。

## 主な取組

- Park-PFI 制度※などの**民間活力**による都市公園の魅力向上

※ 平成29(2017)年度の都市公園法改正により創設された、民間資金等を活用した公園の整備・管理手法

## Park-PFI を活用した公園施設の整備



宿泊施設(移動式コンテナホテル)の整備イメージ

とちぎわんぱく公園/壬生町

## 指定管理者による公園施設の整備



運動施設(ドッグラン)の整備

鬼怒グリーンパーク/宇都宮市・さくら市・高根沢町

- 時代の変化や多様なニーズに対応した**公園施設の再整備・樹木の適正管理**の推進
- 公園施設の定期的な点検と計画的な修繕・更新による**長寿命化対策**の推進
- 都市公園を中心としたエリアの**地域振興**の促進

## 樹木点検と病害虫被害の対策



## サクラ

病害虫の拡散防止と被害抑制のため  
ネット巻きを実施

みかも山公園/栃木市・佐野市

## 「いがしらリゾート活性化協議会」によるイベントの開催



井頭公園/真岡市

## 成果指標

成果指標	現状値	目標値
県営都市公園の年間利用者数	506万人(2024)	530万人(2030)

## 4 公共交通

### 重点施策(1)

#### 地域の実情に応じた公共交通サービスの確保・充実

#### 施策内容

豊かな日常生活の実現や活発な交流・連携の促進に向けて、**地域の実情**に応じた公共交通サービスの確保・充実に取り組みます。

#### 主な取組

- 持続可能な地域交通の確保・充実に対する支援
- 広域的な公共交通ネットワークの充実・強化
- 誰もが快適で利用しやすい公共交通サービスの提供

民間路線バスの運行支援



第三セクター鉄道の運行・施設整備支援



市町村生活交通への運行支援



LRT 整備事業への支援



シームレスな移動を支える  
交通結節点の機能強化



バリアフリー車両の導入支援



## 主な取組

- 新モビリティによる奥日光地域へのアクセスの強化
- 無人自動運転移動サービス導入への支援

新モビリティ導入の検討



奥日光地域

無人自動運転移動サービスの導入支援



- 共創による地域交通の担い手の確保・育成

交通事業者による採用説明会の開催支援



運転体験会の開催支援



企画立案ワークショップの開催



スキルアップセミナーの開催



## 成果指標

成果指標	現状値	目標値
鉄道・バス等の利用者数	22.2万人/日(2024)	24.6万人/日(2029)
公共交通に関する満足度	59.2%(2025)	60.0%(2030)
共創に係る事業の取組件数	53件(2025)	100件(2030)

# みんなで取り組む “流域治水”

## 「流域治水」という考え方

行政が主体となる河川整備等に加え、流域のあらゆる関係者が協働し、様々な流域治水対策に取り組むことで、洪水による被害を軽減することができます。



栃木県では、「栃木県流域治水プロジェクト」を策定し、次の3つの対策を柱に治水対策を取りまとめ、流域のあらゆる関係者による様々な取組を示しています。

## 栃木県流域治水プロジェクトにおける主な取組

### 1 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

●洪水防御施設の整備【行政】



●雨水貯留・浸透施設の整備・促進【行政・住民・企業】



### 2 被害対象を減少させるための対策

●家屋移転  
(防災集団移転)  
【行政・住民】



### 3 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

●ハザードマップや防災情報の確認【住民・企業】



#### 県が配信する防災情報

地震情報／火山情報／気象警報・注意報  
土砂災害警戒情報／指定河川洪水予報  
その他の気象情報 など

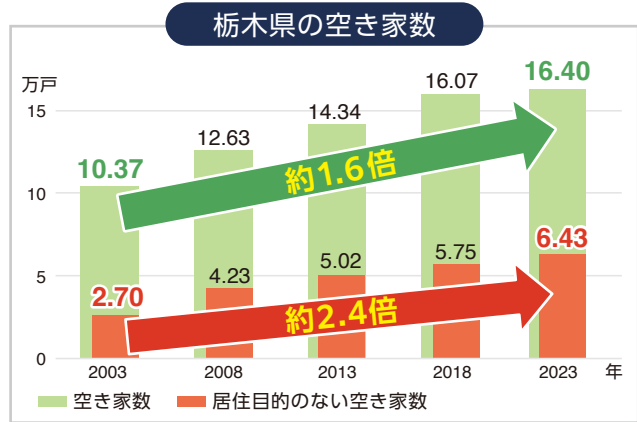
# 空き家対策の推進

## 空き家の現状は？

空き家数は、5年に1度、総務省が実施する「住宅・土地統計調査」により公表されています。

栃木県の空き家数は一貫して増加傾向にあり、平成15(2003)年から令和5(2023)年にかけて**約1.6倍**となっています。

また、賃貸用の住宅、売却用の住宅、二次的住宅(別荘など)を除いた居住目的のない空き家数は、**約2.4倍**となっており、適正な管理が行われていない空き家の増加が懸念されています。



出典: 住宅・土地統計調査(総務省)

## 空き家の問題と対策は？

適正な管理が行われていない空き家は、安全、衛生、景観上の観点から地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼします。また、災害時において、倒壊等により避難や救助の妨げとなるなど、防災上の観点からも問題があります。

これらの問題に対応するため、「空き家の適正管理に向けた所有者への意識啓発」や「空き家を住宅や別用途へ転用する活用促進」、「老朽化が進み活用が難しい危険な空き家の除却」などを推進していくことが重要です。

### 空き家への3つの対策

その1

#### 空き家の適正管理

空き家対策の第一歩は、適正な管理を行うことです。



その2

#### 空き家の活用促進

状態が良い空き家は、活かし方を検討することが大切です。



その3

#### 危険な空き家の除却

老朽化が著しく活用が困難な場合は、除却も選択肢の一つです。



## 具体的な取組は？

### 「とちぎ空き家サイト」の運営

空き家の適正管理・活用促進、危険な空き家の除却に向けた所有者の行動変容を促すことなどを目的とした「**とちぎ空き家サイト-とちぎの家と人をつなぐ空き家ポータルサイト-**」を令和8年3月から運用しています。

#### 主なコンテンツ

- 栃木県空き家バンク(県内の空き家情報を集約)
- 空き家の基本情報(放置リスクや管理手法など)
- 空き家に関する支援案内(県内市町の補助制度情報)
- 空き家の活用事例・提供事例の紹介 など



サイトへのアクセスはこちら





## 第2部

# これからの 県土づくり

## Ⅱ 横断的施策

## 横断的施策 1

### 防災・減災、県土強靱化

#### 施策内容

県民の「命」や「財産」はもとより、日々の「暮らし」や「生業」を守るため、市町、民間企業や県民等のあらゆる関係者と連携し、社会資本の整備や維持管理に加え、防災情報の確実な発信など、強くしなやかな県土づくりに向けて、ハード・ソフト両面で**防災・減災、県土強靱化**を着実に推進します。

#### 主な取組

##### ハード対策

- 平常時・災害時を問わず安定した人流・物流を支える**広域道路ネットワーク**や**緊急輸送道路**の充実・強化
- 災害時における道路交通やライフラインの確保に向けた**無電柱化**の推進
- 安全な道路交通を確保し、孤立集落の発生等を防止する**道路の防災対策**の推進
- 倒木による通行止めや電線等のライフライン被害を防止する**予防伐採**の推進
- 地震による被災を最小化し、緊急車両の通行確保に向けた**橋梁耐震化**の推進
- **洪水による被害を防ぐ河川整備**の推進
- 土砂災害を防止する**砂防関係施設整備**の推進
- **上下水道施設の耐震化対策**の推進
- 大規模災害発生時に防災拠点として機能する**都市公園**や**道の駅等の防災機能強化**等

広域道路ネットワークの充実・強化



国道408号/真岡宇都宮BP

緊急輸送道路無電柱化



県道大田原高林線/大田原市

道路の防災対策



落石防止対策

国道121号/日光市

橋梁耐震化



落橋防止対策

県道宇都宮向田線/宇都宮市/鬼怒通り高架橋

### 河川整備



武名瀬川/上三川町

### 砂防関係施設整備



鮎田地区/茂木町

### 下水道施設耐震化



管渠接合部可とう化

### 都市公園防災機能強化 (駐車場大区画化)



那須野が原公園/那須塩原市

## 主な取組

### ソフト対策

- 水害や土砂災害の危険度を分かりやすく伝える**リアルタイム情報**の充実と確実な発信
- 洪水浸水想定区域や内水浸水想定区域、土砂災害警戒区域に基づく**ハザードマップ整備の支援**
- 地域防災力の向上に向けた**各種防災訓練や出前講座・ワークショップ**の実施
- **自然災害に備えた資機材**の適切な配備と運用
- 土砂災害警戒区域を分かりやすく伝える**ダイレクトメールの送付や標識**の設置
- 国・県・市町・企業・住民などあらゆる関係者が協働して取り組む**流域治水**の推進
- 盛土等に伴う災害を防ぐ市町と連携した**盛土規制法の適切な運用**等

### 防災訓練



### 出前講座



### 土砂災害警戒区域等標識



## 横断的施策 2

## 社会資本の維持管理・更新

### 施策内容

加速度的に老朽化が進行する社会資本について、事後保全から予防保全への転換を見据えた長寿命化対策を実施するとともに、新技術の活用や地域との連携などにより、計画的・効率的な**社会資本の維持管理・更新**を推進します。

### 主な取組

- 公共土木施設等の予防保全への転換を見据えた**計画的な点検と効果的な修繕**等による老朽化対策の推進
- デジタル等新技術の活用による**維持管理等の効率化・高度化**
- **地域インフラ群再生戦略マネジメント(群マネ)**での広域連携・多分野連携による維持管理等の推進 等

計画的な点検及びデジタル等新技術(ドローン等)の活用



長寿命化対策(橋梁)



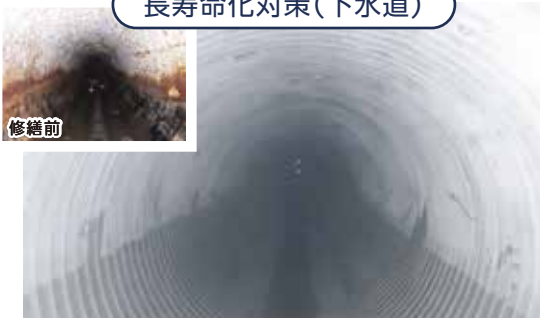
長寿命化対策(河川)



長寿命化対策(砂防関係施設ダム)



長寿命化対策(下水道)



長寿命化対策(公営住宅)



## 横断的施策 3

### 協働・地域間連携の促進

#### 施策内容

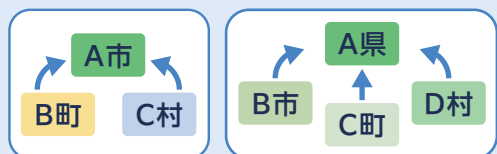
将来にわたって持続可能な県土を形成していくため、**国や市町、関係団体、民間企業及び県民等のあらゆる関係者と連携**し、ハード・ソフト両面から**地域間連携の促進**に向けた取組を推進します。

#### 主な取組

- 「とちぎの道路・交通ビジョン」に基づく、**県域を越えた連携・交流**を支える広域道路ネットワークや公共交通ネットワークの充実・強化
- 国・県・市町・企業・住民など**あらゆる関係者が協働して取り組む流域治水**の推進
- **地域インフラ群再生戦略マネジメント(群マネ)**による地域が連携した維持管理の推進
- **上下水道**の持続可能な事業運営に資する、**広域化・共同化に向けた市町等の取組**への支援
- 地域住民、学校、企業等の**ボランティア団体による環境美化活動**への支援(ボランティアサポートプログラム)
- 地域資源を生かした、**かわまちづくりや河川空間のオープン化、インフラツーリズム**の推進等

#### 地域インフラ群再生戦略マネジメント(群マネ)について

##### 広域連携の群マネ



市区町村同士の「水平連携」や都道府県も関与する「垂直連携」により、**自治体の枠を越えてマネジメント**

##### 多分野連携の群マネ



道路や河川、公園、下水道など、**インフラ分野の枠を越えてマネジメント**

出典：国土交通省HP

#### ボランティア団体による環境美化活動



愛ロードとちぎ



愛リバーとちぎ



愛パークとちぎ

## 横断的施策 4

### 担い手確保・育成

#### 施策内容

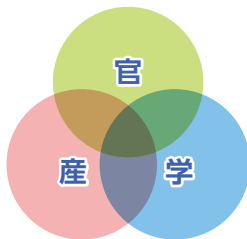
「地域の創り手・守り手」として建設業が持続的に成長・発展できるよう、将来の建設業を支える**担い手の確保・育成と働き方改革の促進、魅力発信**等を推進します。

#### 主な取組

- **インフラトレーニングセンター**の開設による建設業の**担い手確保・育成強化**
- 多様な人材が安心して働くことができる**魅力的な労働環境の整備**推進
- 工事発注の**平準化**、週休2日の標準化や新技術の活用による**働き方改革**の推進
- 出前講座等による**防災教育の推進**とインターンシップ等の**キャリア形成支援**
- **あらゆる世代への広報**や、**建設業の魅力発信**等

#### インフラトレーニングセンターの役割

##### 「産・学・官」で取り組む3本の柱



人材確保

人材育成

魅力向上



建設業の担い手育成を目的とした講習の状況

#### 地域の守り手となる建設業



#### キャリア形成支援



#### あらゆる世代への広報



#### 建設業への理解促進



## 横断的施策 5

## DX・GX

### 施策内容

インフラ分野における生産性向上や業務効率化等に向けて、デジタル等  
新技術の活用や導入支援等による**DX(デジタル・トランスフォーメー  
ション)<sup>※1</sup>**を推進します。

また、環境負荷の低減やカーボンニュートラルの達成等に向けて、グリー  
ンインフラの活用等による**GX(グリーン・トランスフォーメーション)<sup>※2</sup>**  
を推進します。

※1 デジタル技術を活用して、ビジネスや社会の仕組みといった業務を変革する取組

※2 産業革命以来の化石燃料中心の経済・社会、産業構造をグリーンエネルギー中心に移行させ、経済社会システム全体を変革する取組

### 主な取組

#### デジタル・トランスフォーメーションの推進

- **地図情報システムや3次元点群データの整備・活用**による社会資本の管理及び  
**防災情報発信の高度化**
- **ICT活用工事の推進**による建設現場の生産性向上
- **遠隔臨場や情報共有システムを活用**した業務効率化
- **デジタル等新技術の活用**による維持管理等の効率化・高度化
- **インフラDXセミナー**等の各種講習会による人材育成

#### 地図情報システム とちぎ まるっとマップ



#### 3次元点群データの 整備・活用



点群データによる解析結果

#### ICT活用工事



#### 遠隔臨場



### デジタル等新技術の活用



画像診断による舗装点検

### 各種講習会による人材育成



## 主な取組

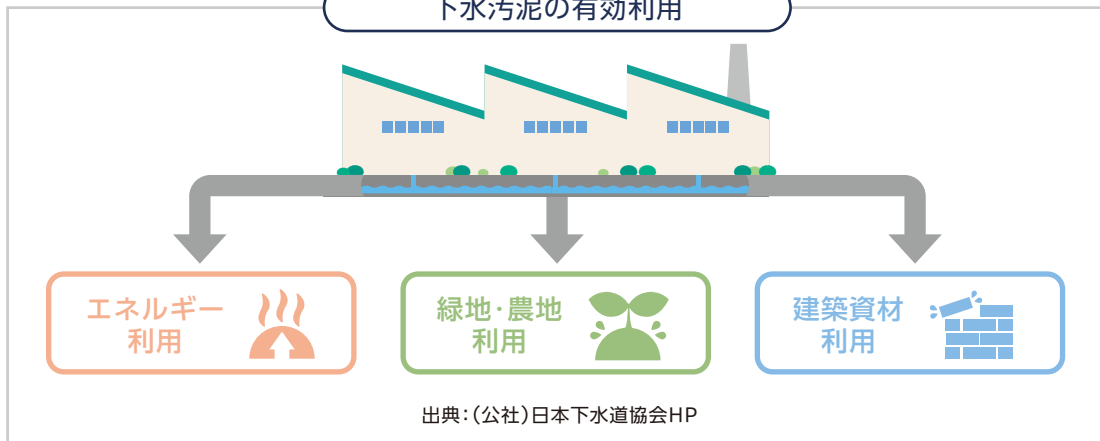
### グリーン・トランスフォーメーションの推進

- 建設現場の排出ガス削減に資する**ICT 活用工事の推進**及び**電動建設機械等の導入促進**に向けた検討の推進
- **環境負荷の低い工法選択・製品利用**の促進
- トンネル照明のLED化など**道路設備の省エネルギー化**の推進
- 渋滞対策など**道路交通の円滑化による脱炭素化**の推進
- **下水汚泥の有効利用**の推進

### 電動建設機械等の導入促進



### 下水汚泥の有効利用



# プランの推進とSDGs

本プランの各種施策を推進することは、持続可能な開発目標(SDGs)の達成にもつながります。

県民をはじめ、市町、企業、NPOなど地域社会を構成する多様な主体と県がSDGsの理念・目標を共有するとともに、連携・協働・共創しながら、SDGsの各ゴールの達成に向けた取組を積極的に推進していきます。

## ● プランに掲げるプロジェクトとSDGsの関係

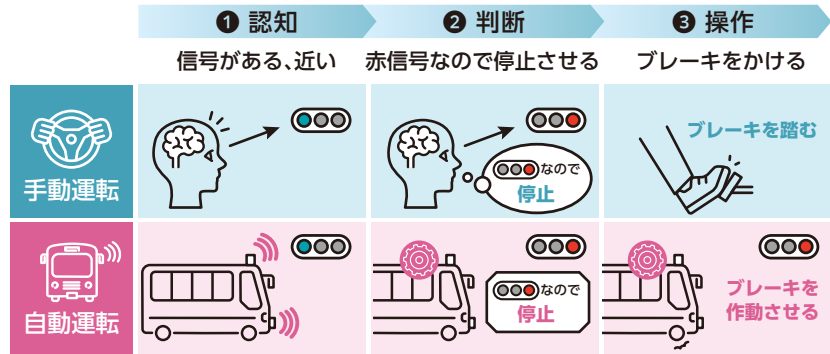
関連が深いゴールに●を記載

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	貧困をなくそう	飢餓をゼロに	健康と福祉をすべての人に	質の高い教育をみんなに	ジェンダー平等を実現しよう	安全な水とトイレを世界中に	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	働きがいも経済成長も	産業と技術革新の基盤をつくろう	人や国の不平等をなくそう	住み続けられるまちづくりを	つくる責任つかう責任	気候変動に具体的な対策を	海の豊かさを守ろう	陸の豊かさを守ろう	平和と公正をすべての人に	パートナーシップで目標を達成しよう
<b>重点施策</b>		●						●	●		●		●				●
成長を支える広域道路ネットワークの充実・強化		●						●	●		●		●				●
誰もが安全で安心して利用できる道づくり			●	●					●		●		●				●
快適で円滑な移動を支える道づくり			●					●	●		●		●				●
災害に強い道づくり								●	●		●		●				●
未来を見据えた持続可能な道路管理		●							●		●		●				●
水災害を軽減するための流域治水の推進	●	●				●			●		●		●	●	●		●
災害対応力の強化									●		●		●				●
「とちぎのスマート+コンパクトシティ」の実現	●					●	●	●	●		●		●	●	●		●
誰もが安心して快適に暮らせる住まいの確保	●			●					●		●	●	●				●
快適で魅力にあふれる都市公園づくり									●		●		●				●
地域の実情に応じた公共交通サービスの確保・充実								●	●		●	●	●				●
<b>横断的施策</b>																	
防災・減災・県土強靱化		●	●	●				●	●		●		●				●
社会資本の維持管理・更新		●	●	●					●		●		●				●
協働・地域間連携の促進		●	●	●		●		●	●		●		●	●	●		●
担い手確保・育成				●				●	●		●						●
DX・GX						●	●	●	●		●	●	●	●	●		●

# 自動運転技術を活用した 地域課題の解決を目指して

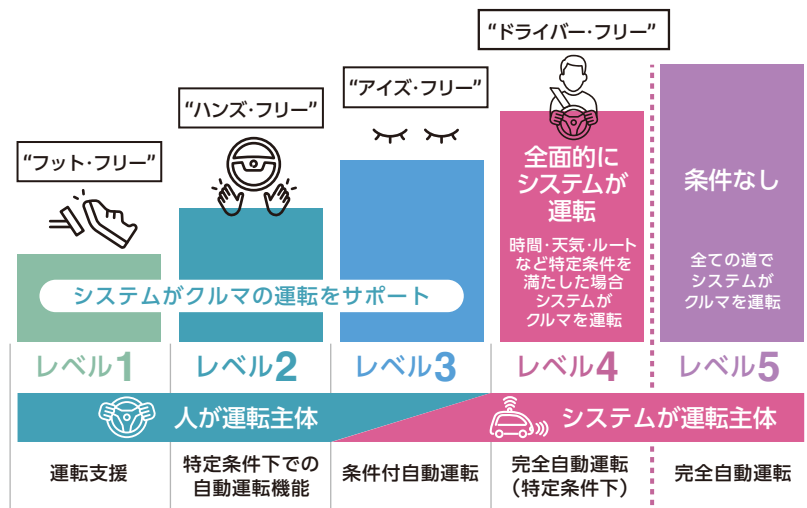
## 自動運転とは？

自動運転とは、人(運転手)が車両を運転する際に行っている、①認知、②判断、③操作という3つのプロセスをシステムが自動で行い、車両を動かす技術です。



## 自動運転のレベル

自動運転のレベルには段階があり、レベルが上がっていくごとに「完全自動運転」に近づいていきます。全面的にシステムが運転することとなる**無人自動運転はレベル4**からとなります。



## 自動運転の実現により期待される効果

自動運転は、自家用車・移動サービス・物流サービスに導入することにより、交通事故の削減、渋滞の解消・緩和、高齢者等の移手段の確保、運転手不足の解消、国際競争力の強化等につながる技術として期待されており、**栃木県を含む全国各地で地域の課題に応じた様々な取り組みが実施**されています。



- ### 自動運転の実現
- 交通事故の削減
  - 渋滞の解消・緩和
  - 移手段の確保
  - 運転手不足の解消
  - 国際競争力の強化

など

# 建設業の魅力向上へ向けて

～「建設業って、カッコいい。」明日の“とちぎ”をつくる仕事～

## 産学官連携で魅力発信!!

### CCIとちぎ



建 Fes Go!



小学校訪問

「CCI」とは、「Charming Construction's Identity」を略したものです。

本県においては、平成4年度に産学官による「CCIとちぎ」(栃木県魅力ある建設事業推進協議会)を設立し、建設事業の役割や重要性の理解、公共施設への親しみを一層深めるために、地域と連携を図りながら各種事業を展開しています。

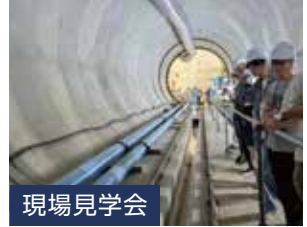
「CCIとちぎ」では、建Fes Go! (建設業協会主催)などに協力し、建設業の魅力向上へ向けPRを図っています。

## 新たな担い手確保!!

### 次世代との交流



とちけん小町



現場見学会

本県では建設業の担い手の確保に向け、**出前講座**や**現場見学会**など様々な取組を行っています。

とちけん小町魅力向上委員会では、幼稚園への建設絵本の読み聞かせなどを行い、建設業を身近に感じるきっかけづくりをしています。

また、新たな取組として、足利大学の情報系学生を対象に、DX(Digital Transformation)に取り組む建設現場を案内し、デジタル技術を活かせる就職先として建設業を紹介するなど、入職希望者の裾野の拡大を目指して取り組んでいます。

## 若手の声実現プロジェクト!!

### 作業服リニューアル



ミーティング



試着会

若手や女性職員の声を背景に、職員が着用する作業服を約20年ぶりに刷新します。

平均年齢20代の若手職員チームが一から企画立案し、「**作業服にも新4K!**」(カッコいい・快適・気配り・県民目線)をコンセプトに、見た目や動きやすさはもちろん、県民の皆様に親しみを持っていただけるデザインを検討しています。

新作業服は令和8年度から順次支給を開始する予定です。

年齢や性別を問わず、誰もが働きやすく、風通しの良い職場づくりを進めながら、建設業の魅力向上に取り組んでいます。

## メリハリのある働き方!!

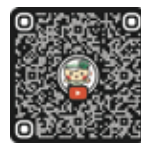
### 働き方改革



**建設現場の働き方改革**を推進するため、週休2日の原則化、準備や猛暑日を考慮した工期設定、ICTの活用、資料簡素化等に取り組んでいます。

## チャンネル登録・フォロワー募集中!!

### SNSによる情報発信



@TOCHIGI\_KENDOSEIBI

YouTube、X、Instagramを活用し、県土整備部の取組を紹介しています。

いざ、新4K(給与・休暇・希望・カッコいい)の実現へ!

● 成果指標一覧

ページ	成果指標	現状値	目標値
P29	広域道路ネットワークを構成する主要路線の整備延長	- km(2025)	10km(2030)
P29	高速道路のスマートIC 数	6箇所(2025)	10箇所(2030)
P31	通学路等の歩道整備延長	- (2025)	60km(2030)
P31	事故危険箇所の対策箇所数	58箇所(2025)	71箇所(2030)
P31	自転車通行空間の整備延長	530km(2025)	555km(2030)
P32	主要渋滞箇所の対策箇所数	59箇所(2025)	91箇所(2030)
P33	電線類地中化の整備延長	79km(2025)	90km(2030)
P33	道路防災点検における要対策箇所の整備率	65.3%(2025)	68.4%(2030)
P34	橋梁 <sup>*</sup> の長寿命化対策実施数 <small>※令和7(2025)年度末において、早期に措置が必要と判断されている全174橋</small>	0橋(2025)	174橋(2030)
P35	河川における優先整備区間の整備延長	98.9km(2025)	120.0km(2030)
P35	土砂災害警戒区域内における重点整備箇所の対策完了箇所数	55箇所(2025)	88箇所(2030)
P37	市町によるハザードマップの整備率	75%(2025)	100%(2030)
P40	立地適正化計画策定市町数	16市町(2025)	21市町(2030)
P40	空家等管理活用支援法人の指定法人数	6法人(2025)	15法人(2030)
P40	下水道普及率	70.4%(2024)	73.2%(2030)
P40	防災指針策定市町数	14市町(2025)	21市町(2030)
P40	上水道の基幹管路耐震適合率	40.3%(2023)	47.3%(2030)
P40	流域下水道の重要管渠耐震化率	36.1%(2024)	90.0%(2030)
P40	都市再生整備計画地区数	109地区(2025)	119地区(2030)
P41	住宅の耐震化率	92%(2025)	96%(2030)
P41	バリアフリー化された県営住宅戸数	3,310戸(2025)	3,400戸(2030)
P42	県営都市公園の年間利用者数	506万人(2024)	530万人(2030)
P44	鉄道・バス等の利用者数	22.2万人/日(2024)	24.6万人/日(2029)
P44	公共交通に関する満足度	59.2%(2025)	60.0%(2030)
P44	共創に係る事業の取組件数	53件(2025)	100件(2030)



# TOCHIGI INFRA DEPT.



## 発行 栃木県

〒320-8501 栃木県宇都宮市埴田 1-1-20  
県土整備部監理課  
TEL : 028-623-2384 FAX : 028-623-2392

栃木県公式ホームページ  
<https://www.pref.tochigi.lg.jp>  
(QRコードからもご覧いただけます)

